

第104回日本精神神経学会総会

シンポジウム

**児童思春期精神科医療における Evidence に基づいた医療
(Evidence-based Practice ; EBP) の海外の動向と問題点**

齊藤 卓弥 (日本医科大学精神医学教室)

世界保健機関 (WHO) は、精神科治療が必要な子どもは2020年には子どもの全体の約20%に達すると報告し、児童精神科医療の充実が急務であると警告を慣らしている。日本でも、近年子どもの精神疾患への注目が高まり、今後精神科医が、子どもの精神疾患の診断および治療に関与する機会は飛躍的に増えてくると予想される。現在まで、子どもの精神科疾患に対する調査研究および臨床試験は限られており、evidence に基づいた医療 (evidence-based practice ; EBP) を児童精神科医療の中で行うことは困難な状況にあった。しか

し、今後、児童思春期精神科医療を充実する上で、EBP を児童精神科医療の中に導入していく必要がある。欧米を中心とした海外では、以前より児童思春期精神科領域でも evidence に基づく医療を積極的に取り入れようとする試みがなされている。今回、海外での EBP の実態・動向を報告するとともに、今後日本で evidence に基づいた医療を実施する上での問題点を議論し、将来への展望を行う。

(この論文は抄録集より転載しました)